



同窓会だより

校訓

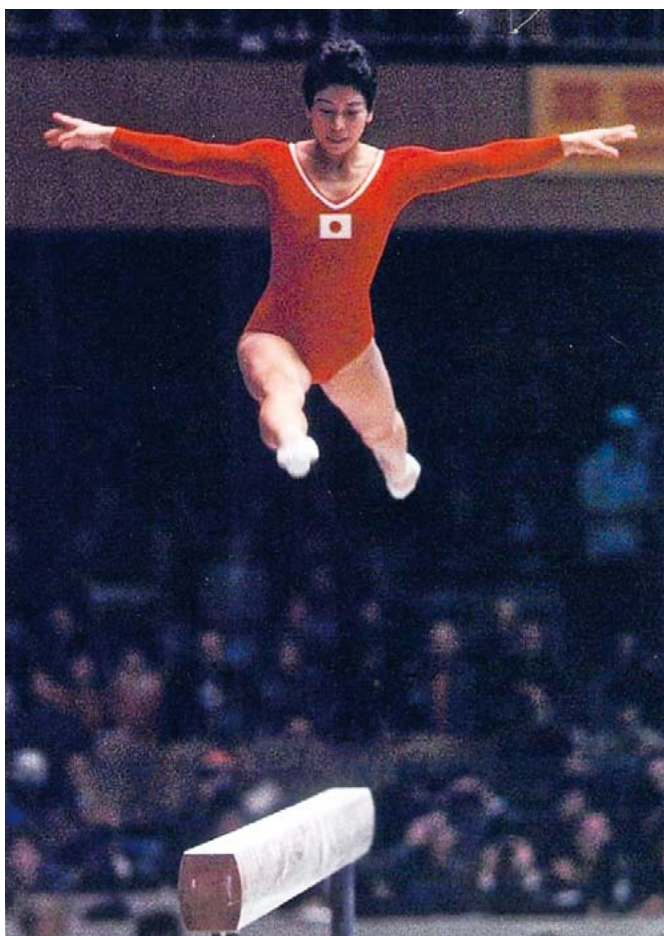
けいしん あいち

敬心 愛知

けんし りょっこう

堅志 力行

去る5月13日、日本体操界の至宝・池田敬子さん(3回生)が亡くなりました。体操選手としてローマ世界選手権大会金メダル(平均台)、東京五輪銅メダル(女子団体)を獲得。その後、日本体操界、大学教育界に貢献されました。ご逝去に際し、謹んで哀悼の意を表するとともに、今号は池田敬子さんの追悼号として、100周年記念誌より関連記事を掲載させていただきます。



私(池田敬子)は、子どもの頃から運動能力が抜群で、佐木島の自然の中で遊びを通して才能の基礎を築きました。鉄棒は特に好きで、小学5年の頃には大車輪ができました。

三原高校には船で通学しました。15cmくらいの船の縁を歩くのが好きでした。船の後部にある雨よけカバーの鉄棒が曲がっているので船の人に「これ、直さんといけんよ」というと、「あんたがぶら下がって懸垂するからだ」と言われました。

校長室の前に鉄棒があり、蹴上がりなどをしている

と、体育の先生に「なんで器械体操ができるのか」と言われ体育館に連れて行かれました。中ではサーカスのようなことをやっていました。そこで中島先生と出会い「これ、やりたい」と思い器械体操を始めました。



最終便ぎりぎりまで練習し、練習着のまま船に乗り着替えました。それでもたびたび船に乗り遅れ、中島先生のお宅に泊めていただきました。中島先生のご両親には、娘のように可愛がっていただきました。

船の縁を歩いていたので平均台は得意でした。平均台の上を走ると中島先生に「走りんさんな」と言われ、バレエのようなことをやると「それはサーカスだ」と言われました。しかし、その時代が来ると思っていました。広島県でやるような技はすぐにできました。1年生の6月の国体予選で1位になり、国体に出ました。



向田の家で布団を広げて練習をしていると、おばあちゃんは「女の子がこんなことをして」と怒っていま

した。「これで国体に行く。器械体操というんだ」と言いました。おばあちゃんは、体操というラジ体操とっていたようでした。



大学受験でお茶の水を受けたとき、ダンスで有名な戸倉ハル先生が「あなたはここに来てはいけない。五輪に行けませんよ。日体大に行きなさい」と言われ、日体大に決めました。当時の世田谷は、まだ焼け野原で体育館もなく、砂場で、福山の体操器具工場社長の「おじいちゃん」が作ってくれた平均台で練習しました。暑い夏も寒い冬も、星空の下、月明かりで夜中まで練習しました。

ローマの世界選手権大会（1954年8月）では、女子はコーチも審判も派遣されず、参加は選手の池田弘子（みつこ）さんと私の2人だけでした。試合前日、審判講習会に参加すると、日本での練習が役に立たないことが分かり、慌ててホテルの廊下で練習しました。深夜2時、酔っ払って帰って来たハンガリーのケレティが明け方4時まで指導してくれました。彼女はヘルシンキ五輪の床で金、段違い平行棒で銅の選手でした。

夏のローマは暑く、会場は陸上競技場。炎天下での演技となりました。そのため平均台では有望選手が次々と落下しました。私の演技は夜になりました。星空の下、日体大の砂場で積み重ねた練習が実を結び、

ジャンプもターンもピタリと決まりました。それは世界初の技でした。

ところが、演技後池田弘子さんが段違い平行棒から落下、歩けないほどの捻挫をしたため、彼女をおんぶして病院へ連れて行きました。そして自分の順位も知らないまま弘子さんをおんぶしてホテルに帰り、2人は疲れてそのまま寝てしまいました。

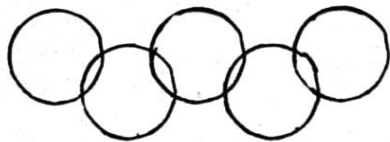
しばらくして、ドアを叩く音がして男子の竹本先生が「おい、表彰式があるからすぐに出てこい」と言います。「お前、優勝したんだぞ。平均台で金メダルだ」。ドアを開けると廊下は花束の山でした。地元の朝刊の1面には「ローマの恋人」という大見出しで、「日本からやって来たかわいい女の子が、超人的な演技で平均台の金メダルに輝いた」という記事が写真付きで載せられていました。



東京五輪（1964年）に向けての合宿が、長野県菅平で行われました。私は、2人の子どもを連れて参加しました。主人は体操男子ヘッドコーチの池田睦彦です。私は、朝は皆より早く起きて、合宿所から500m下にある旅館に走って下りて子どもたちのおむつを洗濯し、少し子どもたちの面倒を見て、合宿所に走って上がり6時30分の起床時間には皆を起こしました。そして朝の体操をやって若い選手と同じように練習をこなしました。子どもたちのお陰で体力がつかしました。休みの日には子どもたちと川へ行ったり虫を捕ったりしました。その期間、子どもたちの面倒を見てくれる「お姉さん」がいましたが、その後も一緒に暮らしました。子どもたちは、「お姉さんの面倒は僕たちが見る」と言ってくれています。

東京五輪では、男子は団体で金、遠藤幸雄さんが日本初の個人総合で金でしたが、女子は規定演技で4位。メダルが危ぶまれました。

演技は平均台から始まり、まず千葉吟子がノーミスで大役を果たし、続く辻宏子も練習の成果を出しノーミス、中村多仁子も辻を上回る得点、小野清子はさらに高得点。相原俊子も順調に終え、最終演技は池田敬子。ダイナミックなジャンプとターンをピタリと決めました。続く床、跳馬も実力を出し切り、最後の段違い平行棒が終了して、史上初の団体3位、銅メダルに輝きました。



T O K Y O 1 9 6 4

東京五輪の翌月、秋田の全日本選手権大会で8回目の個人総合優勝を飾り、段違い平行棒でも優勝していましたが、このとき最後の床のウォーミングアップでアキレス腱断裂の大けがをしました。当時アキレス腱断裂は引退を意味していましたが、すぐに東京に戻りかかりつけ医で手術をしてもらいました。3か月の入院と徹底的なリハビリの後、翌年の全日本選手権で9回目の個人総合優勝を果たしました。このとき、はじめて表彰台で涙しました。翌年10回目の優勝を果たしましたが、その後下降線をたどり、盛岡市での全日本選手権が最後の大会になりました。

それ以後は五輪選手を育成するためにクラブ運営に尽力しました。体操選手として引退宣言はしていません。試合への出場をやめただけです。朝の逆立ちから一日が始まります。逆立ちができなくなったときが、池田敬子の体操選手からの引退だと考えています。私

の人生には「引退」の文字はありません。(完)



哀悼のことば

同窓会長 戸野 法史

池田敬子さんのご逝去を悼み、謹んで哀悼の意をお伝えします。

本校体操部は、故中島リキ子先生の指導のもと、池田（田中）敬子さんの活躍を始めに、その後相原（白須）俊子さん、佐野（吉川）智恵子さんと、3名のオリンピック選手を輩出しています。



ご存じのように、池田敬子さんは、ローマ世界選手権大会チャンピオンさらに東京オリンピックの銅メダリストとして体操競技のトップアスリートの道を歩られました。

さらに、女性の社会進出が求められる一方で家庭を守ることが大切であるという伝統的な価値観も根強かった時代背景の中、母親と選手との両立を果たすという女子競技者の新たなライフスタイルに果敢に挑戦され、そして見事に両立を果たされるなど、新しい境地を切り開くパイオニアとしてご活躍されました。各新

聞社から回顧録として、また 100 周年記念誌にもこの間の経緯が詳しく記載されており、読み返してみますとそこには大変なご苦労がおりであったことがよく分かります。

長い競技者生活を終えられた後は、指導者としてジュニア競技者の育成に取り組み、さらに教育者として日本体育大学副学長の重責を担われました。

100 周年記念誌のインタビューに同席した際には、エネルギーッシュな一面を伺うことができましたし、世界チャンピオンというオーラを感じつつも、飾らない率直で朗らかなお人柄に感銘を受けたことが印象深く残っています。

三原高校にとって池田敬子さんの残された功績はとても貴重でかけがえのないものですから、私たちはこれからも大切に受け継ぎます。

功績を讃えて

校長 大久保 信行

池田敬子先生の偉大な業績とその人となりを深く尊敬し、心から追悼いたします。先生は、体操競技の世界だけでなく、教育と指導の分野においても、多大な影響を与え、希望と勇気を鼓舞されてきました。



三原高校在籍時から挑戦者としての精神を持ち、さまざまなスポーツに励み、その中でも体操競技に真摯に向き合ってこられ、その情熱と努力は、世界の舞台で輝く原動力となりました。また、体操競技の国際的な舞台での活躍により、日本の名誉を高め、未来の選手たちに大きな夢と希望を与えました。ローマでの世界選手権において金メダルを獲得し、「ローマの恋人」と称えられるほどの成功を収めたことは、日本のスポーツ界にとって誇るべき瞬間であり、その功績は永遠に記憶されることでしょう。のちの東京オリンピックでは日本の団体銅メダルにも貢献されています。

池田先生の偉大さは単なるメダルや栄誉だけではありません。指導者としても、数多くの若い選手たちを育て上げ、後進に夢を追い続ける力を授けました。先生の情熱、厳しさ、そして温かさは、指導の

下で成長した選手たちの心に深く刻まれています。日本体育大学で教鞭を執られましたが、先生自身の経験と信念に裏打ちされた指導は、学生に大きな刺激を与えたことでしょう。今年度、三原高等学校の体操部員が7年ぶりに中国大会出場を果たしてくれました。先生が目に見えない力を与えてくださったものと思っております。

最後になりますが、ご冥福を心よりお祈りし、その偉大な業績とこれまで多くの人に元気を与えてくださったことに感謝と敬意を表します。先生の足跡と精神は、体操界、教育界で受け継がれ輝き続けるとともに、その功績は、三原高等学校でも語り継がれていくことでしょう。池田敬子先生、本当にお疲れ様でした。

4年ぶりに総会・懇親会が 開催されました

去る8月13日(日)、コロナ禍で中断していた総会・懇親会を4年ぶりに開催することができました。今回は41回生を主に、21回生、31回生、51回生が当番幹事を務めました。幹事の皆様、出席いただいた皆様のおかげで充実した総会、楽しい懇親会となりました。

今回は、中断していたため参加人数は90名にとどまりましたが、まずは復活1回目、やることに意義があり、来年以降につなげていくことを目標にしました。これをきっかけに、来年、再来年と参加者が増え、同窓会活動の活性化につながるよう頑張ってまいります。

参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



編集・発行：広島県立三原高等学校同窓会

〒723-0016 広島県三原市宮沖4-11-1

TEL：0848-62-2151（三原高校内）